# キャプティブ保険プログラム

### キャプティブの効果

07

#### リスクマネジメントの向上

リスクを自社で保有するため、リスクを低減させようというインセンティブが働きます。

その結果、損害率の改善につながり、引受収支が改善します。

リスクコストの把握ができることで、効率的かつ統一的な保険プログラムの構築に役立ちます。

又、損益分岐点が推計出来るため、免責金額・保険・保有のバランスの最適化を実現することが可能となります。

#### 保険コストの抑制

02

損害成績の良い契約の一定割合を再保険の 形で保有することで、引受利益を享受する ことが出来ます。

キャプティブの事業形態やドミサイル(設立 地)によって税務上のメリットが期待出来 ます。 )3

### キャッシュフロー

(現金の流出、資金繰り)の改善

未経過保険料準備金や支払備金など、保険 会計上の特性を利用して課税の繰り延べ※が 出来、キャッシュフローの改善ができます。

※一定期間留保し、支払いの時期が到達するまで 保有する。

一般の保険市場では入手が 難しい保険リスクへの付保

04

保険会社が引受けに慎重なリスク(例:環境 汚染、危険度の高い生産物賠償、リコール、知 的財産権侵害、製品保証、専門職業賠償)を国 内で免許のある保険会社(フロンティング 会社)を通じて再保険で引き受けることが 可能です。 再保険市場へのアクセス

05

適切な再保険料で再保険を購入することで、 キャプティブ自体の保有リスクを調整するこ とが出来ます。

## キャプティブの仕組み

本社

- ・本社が元受保険会社と契約
- ・元受保険会社は契約の一部をキャプティブ に出再
- ・キャプティブは受再した契約を保有もしく はその一部を再保険会社に再出再



元受保険契約

国内保険会社 (フロンティング)



キャプティブ



再保険会社 (国際保険市場)

## キャプティブ設立に適した企業とは?



#### 望ましいリスク

- ・予見可能な損害(高頻度、低重度)である
- ・市場平均を下回る損害率である(例:過去5年平均損害率30%以下)
- ・複数の保険を購入しており、柔軟な出再を検討できる
- ・保険未加入か保険手配が不可能なリスクを持っている
- ・毎年一定規模の保険料を支払っている(目安:1億円以上)

#### 望ましい企業内環境

- ・特定の部署で保険全般を統合的に管理している
- ・全社的にリスクマネジメントの向上に努めている
- ・保険会社へ依存することなく、会社主導で保険を管理している
- ・組織の充実した子会社代理店に保険業務全般を任せている
- ・包括的な保険プログラムを導入しているかプログラムに統一したい 意向がある

